

# 地域づくり協議会だより

◎ 原稿募集中

広報部会

発行日：令和3年 3月 1日 発行者：大和町連区地域づくり協議会

一宮市末広三丁目6番1号(大和町出張所内) 電話：28-9006

## 第3回大和防犯ポスター展

大和防犯パトロール委員会 副会長 笠井 光男

最優秀賞：加藤 心

北パトロール隊長賞：星野 暦

中パトロール隊長賞：植田珠葵

南パトロール隊長賞：黒木詩織

優秀賞

赤塚 凜	小川悠沙	加藤俊一郎	川田健斗	河村莉央	高木彩帆
田中陽埜	玉井 滯	濱田琴々菜	野村 颯	林竹美優	本田 光
森 潤貴	岩田吉博	伊豆見暖菜	尾上菜夏	加藤暖乃	真鍋利緒華
吉良南美	篠田 楓	小島優希采	長縄真央	彦坂美結	堀井ちひろ
吉田実夢	河邊歩穂	渡辺陽葉里	(敬称略)		

(2020年度提案事業)



【最優秀賞】

青色防犯活動の啓発に「防犯ポスター展」が開催されるようになって3年目。令和2年度は、12月13日に実施されました。当時、コロナ禍で公民館まつりの中止が決まっていたので防犯ポスター展の開催をするか否かで迷っていたのです。ところが、応募対象校：大和南小【継続することに意味がある。コロナで応募が少ないことが予想される。授業を通してでも防犯活動の大切さを訴えたい。】との考えとパトロール委員会の考えが合致し、「防犯ポスター展」を開催することに舵を切ったものです。その結果、応募作品103点と力作の多い展示となりました。コロナ対策に精力を注ぎましたが、コロナ禍での開催となり来場者が69名と少なかったのが心残りです。令和3年度は末広小・4年度は神山小の皆さんです。皆さんの応募を待っています。



### ▼ 見守り事業 (2020年度提案事業)

子ども見守り事業として、子ども達が犯罪に巻き込まれそうになった時、周囲に知らせることができるように令和3年4月に小学校に入学する1年生に防犯ブザーが配布されます(令和3年度のみ)。



防犯ブザー

### ★ 青色防犯パトロール車両 (大和防犯委員会登録)

2018年4月、大和町連区青色防犯パトロール隊が発足して4年目に入ります。巡回パトロールを重ね、犯罪防止や防犯意識高揚などに貢献してきました。今も隊員さんの車両を青パト車として登録して活動を続けています。今回、大和防犯委員会の車両が市より譲渡されました。子どもの見守り活動も増え、連区の大きな力となると思います。みなさんも『住みよい連区をめざして』一人ひとり安全な行動規範を育てていきましょう。



青色防犯パトロール車両

### ▼ 防災事業 (2020年度提案事業)

予想される大規模地震の災害への備えとして、防災倉庫及び災害時の必要な資機材を購入しました。また、炊き出し訓練に活用して意識の高揚を図ります。

<資機材>

防災倉庫、LPガスバーナーセット(1)

防災用釜戸セット(3)、リヤカー(3)



大和町連区地域づくり協議会 防災倉庫

提案事業(新規事業)とは、一時的、集中的に資金を投下することで、大和町連区により良い効果が認められると判断した事業に対して、市が提案事業交付金を支給した事業のことです。2014年12月、大和町連区地域づくり協議会が発足して6年の月日が流れました。協議会を構成する19の団体等が、大和町連区のことを一緒に考え、協力して福祉事業に取り組んでいます。

# 防災特集

## 『地震』への備え



### 自宅にいるとき

#### ●地震だ！まず身の安全

揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動します。丈夫な机、テーブルの下や「物が落ちてこない」「たおれていない」「移動してこない」空間に身を寄せて揺れが収まるまで様子を見ます。この2つは、自分自身と家族の命を守ることを最優先に考えて行動します。

#### <リビング・キッチン>編

背の高い家具の下敷きになること、照明器具・食器棚などのガラスの飛散によるケガ、キッチンの冷蔵庫や電子レンジなどの大きく重い家電、棚から物の飛び出しなどに注意が必要です。

揺れが収まったら、ケガをしないように底の厚いスリッパや運動靴で足を保護して移動します。ドアを開けて避難経路を確保します。調理中の場合は、まずは身を守ることを最優先に考え、火の始末は揺れが収まった後にあわてずに行います。

#### <寝室>編

窓ガラスの破片や吊り下げ式照明器具などの直撃を避けるため、枕や布団などで頭を保護してスタンドや鏡台などが倒れてこない場所へ移動します。

メガネは、日頃からケースに入れて決めた所に置いて寝るようにして破損を防ぎます。入歯・差し歯の置き場所にも注意。避難した時などに食べ物で困らない。停電になると真っ暗になりますので、懐中電灯の用意や停電時に自動点灯する保安灯の備え付けも一案です。

#### <2階>編

古い建物の1階は倒壊する危険がありますので、あわてて1階に下りないことが大切です。外に脱出すべきか状況をよく見て判断します。(1981年5月以前の基準法改正前の建物は、市の耐震診断を受けましょう。)

#### <トイレ>編

トイレは、閉じ込められて避難できなくなるおそれがあります。揺れが収まったら、すぐ逃げ出せる準備をしましょう。万一、部屋に閉じ込められたり、身動きできなくなったりした場合は、大声を出し続けると体力を消耗する危険があります。硬い物でドアや壁をたたき大きな音を出したり、防災笛をふき続けたりしてください。

## 防災人材交流シンポジウム

昨年、11月15日、東北3県(宮城、岩手、福島)から、地震・津波+原子力発電所の多重災害に遭われた方の体験報告会がありました。この地域は、チリ地震津波や西日本地震・宮城地震など4~5年の周期で災害が発生しています。

東海の地域は、震度5強の体験がなく『ぬるま湯』につきり、防災の話聞いても他人事で、何の手立てもしない人が多いのではないですかと、あいさつで尋ねられました。

最初は、東松山市の志野さん(22才)。震災時、彼女は小学6年生で学校の体育館に避難して助かりました。ところが、爺ちゃんは、近隣の人が声をかけても、防災バックを持ち、彼女の帰りを玄関で待っていたと、後日聞きショックを受けたそうです。『何かあったら学校に避難しよう』と話し合いをしておくべきでしたと。彼女は、自分の命は自分で守ることが第一です。少しでも安全な場所に避難して下さい。災害に対して「まさか自分たちが・・・まさか×××」を無くすために語り部になりましたと話してくれました。11月15日は彼女の誕生日でしたが、皆さんの前で是非話をしたいと名古屋に来てくれました。志野さん、ありがとう。

次は、富岡町の語り部の青木さんです。震災を受けるまでは、原発の恩恵を受け豊かな気概一杯の町でした。地震で・・・ビックリ、続く津波で二度ビックリ。地震から津波まで約40分程の間隔がありました。住民の大多数が車に乗って避難すれば大丈夫と思い、出発し渋滞に巻き込まれました。ところが、地震で橋の中央部が凸型となり、身動き出来ないが続いている間に、津波に襲われて車ごと流されて多くの人が亡くなられたそうです。地震や津波の災害時は「車で避難しては駄目！」また、車は粗大ゴミになって救援活動にも支障をきたします。地震や津波、出水(冠水)については、「必要な情報を正しく聞くことが大切」と話されました。更に原発事故が重なり汚染という三重苦の被害を受けました。

『すべての人々がすぐに帰ってこられる』と思い、何も持たずに家を出て7年。ところが、仮設などに避難することになりました。全町避難して津波は終わっても原発汚染で家に帰れないと、話を締められました。彼女は高校で校長先生を歴任され、語り部として活躍されています。



#### <浴室>編

浴室はケガ(ガラスなど)をしやすい場所です。身を守るため洗面器などで頭を守り、すぐに浴室から出て、素早く着衣して待機します。

# 『3.11を未来につなぐ』に参加して

大和町連区自主防災会 代表 太田 一弘（防災士）

最後の語り部は、名古屋市出身の神谷さんでした。大槌町は、コミュニケーションが十分機能している町でした。災害発生時も、バラバラになった家族も近隣の人々により「〇〇学校・〇〇避難所に居たぞ」と伝えられ、家族探しも容易な地域とのことでした。

話は進み、この町は町長はじめ町の幹部職員が前庭で防災対策を行っていた時、津波に襲われて多くの方が亡くなるという最悪の事態が発生しました。町として「自転車がほしい」と伝えられると、全国から多くの自転車が寄せられました。しかし、なかなか配布されませんでした。職員は、どのように判断してよいかわからない状態が続いたそうです。日ごろから伝達されたことを「ハイハイ」と言ってきたため、一人では決断できなかったのです。『上司がいなけりゃ、決断・決済ができない人は不用品』。人や上司に一方的にたよらない、常日頃から決断を下せるような教育が大切だと話されました。

最後に、コーディネーターさんが発言されました。この地域は、地震の低頻度の地域です。もし災害が来ても体験がないに等しいため何をどうすればよいかわかりません。頭に浮かぶのは、『まさか・・・まさか・・・』の連続ではないでしょうか。自分の事として考えづらいです！災害が発生したらあなたは一人でも逃げられますか？日本人は、他人を尊ぶため逃げなければと考えても、人が動かないと出来ません。危ないと思ったら、沈着冷静に一呼吸置いてから人よりも早く脱出しましょう。あなたもよく考えて下さい！



## <オフィス>編

キャスターを固定していないコピー機・机などは、あらゆる方向へ移動します。体に当たったり、窓ガラス・照明器具の破片などが頭を直撃したりすると大ケガや命を落とす危険もあります。キャビネットの転倒などに注意しながら、物が「落ちてこない・倒れてこない・移動しない」場所で一段落するのを待ちます。避難する場合、停電でエレベーター・エスカレーターが停止するおそれがありますので階段を使いましょう。高層ビルは長く揺れ、立ってられないほどになります。安全な場所に避難して揺れが収まるのを待ちます。また、火災についても十分に注意して避難してください。

## <学校>編

教室では、飛散した窓ガラスの破片や照明器具の落下を避けるため、窓から離れ、机の下に隠れ、机の脚を持って揺れが収まるまで待機します。廊下では、すぐに窓から離れ、階段では、転び落ちないように手すりにつかまります。運動場にいる場合は、その場で姿勢を低くして頭を手で守って揺れが収まるまで待機します。揺れが収まったら、先生の指示に従って行動します。

## 外にいるとき



## <車>編

揺れに気づいたら、急ブレーキでスピードを落とすと衝突の危険があります。ハザードランプを点灯して徐々に左側に止めてエンジンを切り、揺れが収まるまで待機します。避難する際は、緊急車両の通行の時に車を移動できるようにキーは付けたまま、ドアロックをせず、連絡先かメモを残し、貴金属や車検証を持って車から離れます。

## <トンネル>編

天井や壁面崩落の危険があるので、前方出口が見通せれば低速でトンネルを抜けます。長いトンネル内の場合は、左側に寄せて停車し、キーを付けたままで非常口から脱出します。

## <橋梁・高架>編

古い橋は損壊のおそれがあります。橋を渡り終えられれば、減速して渡り切りましょう。橋梁や高架は、それぞれ揺れ方が異なりますので徐々に減速して左側に停車します。

## <百貨店・スーパー・コンビニ>編

商品の散乱やショーケースの破損などに注意して階段の踊り場や柱の近くへ。コンビニでは、買い物かごなどで頭を守り、身を守ります。

## <劇場・ホール・スタジアム>編

大勢の人が集まる施設では、あわてて非常口や階段に殺到せず、館内放送や係員の指示に従います。まず落ち着いて行動することが第一です。

## <繁華街>編

看板などの落下物から身を守り、ビルや店舗の倒壊にも注意しながら、公園など安全な場所へ。広い所に逃げる余裕がない場合は、耐震性の高い比較的新しい鉄筋コンクリートのビルに逃げ込みます。人混みで最も怖いのはパニックになることです。人の多い場所ほど、冷静な行動が人々に求められます。

## <地下街>編

停電で多くの人がパニックになり、非常口に殺到するとケガの原因になります。落ち着いて落下物から身を守り、柱や壁のそばで揺れが収まるのを待ちます。いろいろな場所で遭遇する可能性があります。十分に注意して行動しましょう。

## シリーズ⑥ 大和町連区自主防災会



【あかり作り10/24】

### 取り組みを振り返って

東日本大震災が起きて10年、甚大な爪痕を残し、今なお避難生活の方がたくさんみえます。その後も熊本・長野県北部・大阪北部・胆振東部地震等々、各地で大きな地震が発生しています。そのたびに、辛く悲しいTV映像が目飛び込んできました(台風・豪雨災害含)。年々、私たちの住んでいる一宮はどうだろうと防災について考える機会がたいへん多くなりました。

市のホームページには、被災した自宅で生活できない場合、市は一定期間避難生活を送る施設「避難所」を設ける。避難所は利用者の『自主運営』を原則としています(避難所運営マニュアル)。大規模災害の場合行政・各防災関係機関は、全力で防災活動を行いますところが、通信網の不通や交通障害の発生など、悪条件が重なると被災地域すべてを救うことができないことも考えられるとしています。こうした事態に直面した場合、みなさんに消火活動、救出救護活動、避難誘導活動の協力を求めています。市は、以前より、災害が起きた時のために町内別に自らの手で自らの生命・身体・財産を守る自発的意思に基づく組織(自主防災会)を設けることを推進してきました(全体結成率:約97%)。大和町連区の各町内会(自治会)も趣旨に賛同して自主防災会が設けられました。

防災意識の高まりに伴う多様なニーズに対応するた

め、『大和町連区自主防災会』に所属する町内の自主防災会の存在の重要性を連区地域づくり協議会役員会において再確認されました。2020年1月、被災は最少に、速やかに普段の生活を取り戻す取り組みをする町内の自主防災会を目指し、陣頭指揮される役員さん・防災を学ぶ方を対象にする自主防災リーダー会(毎月第4土曜日、大和公民館)が開催されることになりました。1月:伊藤元博氏(一宮防災ボランティアネットワーク代表)、3月:近藤 斎氏(NPO法人認定防災士)8月:伊藤善之氏(あいち防災リーダーいちのみや支部)を講師に招いて研修を重ねました。

9・10月:自主防災会の9班(本部総務、消火警護、救出救護、食料物資、情報、環境衛生、避難誘導、施設管理、屋外支援)の取り組む内容が確認されました。連区33町内会の各班担当者と連携を図り、避難所別の取り組みが可能になりました。11月の講師宮田 昇氏(危機管理課)は、全家庭に配布されている『一宮防災ハンドブック』(平成28年3月発行)を使い、家庭や近所で日頃の防災に関する対策を見直すように話されました。そして、地域の助け合う「共助」の体制づくり(自主防災組織)の必要性についてまとめられました。また、避難所などの”あかり”を確保する訓練も行いました。これから様々な取り組みが開始されます。みなさんも大規模災害の時に助け合いができる町内になるためにも、近隣にお住いの方と協力できる関係づくりを育てていかれることを願っております。



【講師:宮田 昇氏(危機管理課)11/28】

## 令和2年度 大和町連区歩こう大会 体育レクリエーション部 部長 森 幸夫

澄み渡る秋空の中、公民館主催、学校外活動推進委員会協催の「歩こう大会」を11月3日(火)に開催しました。今年は、コロナ禍、検温・アルコール消毒・マスク着用など感染防止を十分に図り実施しました。さらに、講話や赤十字大和分団様の豚汁・クイズによる景品など中止を余儀なくされました。その中でも、250名の参加を頂き、大和公民館をスタートしました。

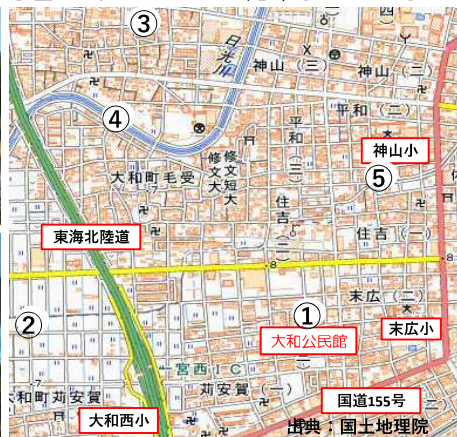
最初に、苅安賀から中央道を渡り、大和西小を北に向かい、のどかな田園風景の中を歩き、馬引公民館にて、ドリンクで喉を潤し一休みしました。さらに、安全で歩きやすい毛受緑道から神山緑道、中央プラザを通り、公民館にゴールしました。参加賞に今回は、日用品の袋詰めを皆さんにお持ち帰りいただきました。ご参加頂きました皆さんに心からお礼申し上げます。



馬引公民館:休憩



② イネの収穫後の田や東海北陸道を見ながら北上する



① スタート

感染防止対策(検温・消毒・マスク着用)



④ 日光川にかかる大和橋を渡る



⑤ 用水の上の神山緑道を進む

出典:国土地理院